

### 茨城大附属小学校、6月2日に教育研究発表会 「未来をつくる子どもを育てる」研究授業や協議

茨城大学教育学部附属小学校は、教育研究発表会を6月2日に開催する。研究テーマは「未来をつくる子どもを育てる」。研究授業や研究協議、全体会、さらに国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部の西野真由美総括研究官による講演「対話的な学びを生み出す学習指導」などが行われる。

同校では、これからの社会や自分の人生をよりよいものにするために、これまでの学びや経験を生かして、自分を取り巻く条子湯に主体的に関わっていく子どもの育成を目指し、研究を展開。現在は未来をつくる子どもに必要な力を育む手立ての具体的な手立てについて、各教科等で探っている。

### 弘前大附属特別支援学校、7月に公開研究発表会 「『豊かに表現する児童生徒』を育む授業の在り方」

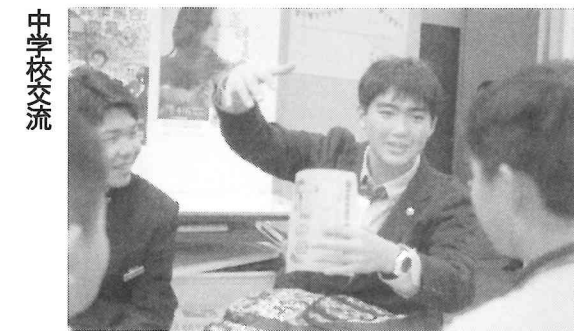
弘前大学教育学部附属特別支援学校の平成29年度公開研究発表会が、7月13日に開催される。研究主題は「『豊かに表現する児童生徒』を育む授業の在り方―子どもへの観点別アプローチの試み」。提案授業、公開授業、分科会(研究発表、協議)、さらに鹿児島国際大学福祉社会学部児童学科の成田孝教授による講演「豊かな表現を育むための教授学的根拠を考える」などが行われる。

問い合わせは同校(電話0172・36・5011 FAX0172・36・5012 e-mail yachihi@hirosaki-u.ac.jp)まで。

### 新潟大附属新潟中学校が「台湾の旅」 『グローバルなものの方』獲得ねらいに

新潟大学教育学部附属新潟中学校では、2年生を対象に台湾への「旅(※)」を初めて行った。自国の文化とは異なる台湾のよさや魅力を体感することを通して『グローバルなものの方や考え方を身に付けること』をねらった。

「台湾への旅」に至るプロセスとして、1年次では東京での職場訪問と留学生との交流を行い、2年次では新潟市内での職場訪問を行った。また生徒の課



中学校交流

研究授業は国語、社会、算数、図工、家庭科、生活科(ゆめ)、外国語活動(Eタイム)、道徳(こころ)の各教科等で実施。テーマは「登場人物の気もちの変化にせまる」(国語)、「つなげていくもの(よりよい学校生活)」「(道徳)、「かずであそぼう」(外国語活動)など。

参加費2000円(資料「教育研究発表会・学習案」「研究紀要」代含む)。問い合わせは同校(電話029・231・2831 FAX029・227・2358 e-mail h arakara@ml.ibarakia.c.jp)まで。



事業所訪問



台湾では、主にB&Sプログラムによる台北市内の散策、日本とかかわりのある事業所への訪問、天母(テンポ)中学校との交流会を行った。生徒は、日本と似ている台湾の文化や風習に気付いたり、日本とは異なる台湾の文化や風習に戸惑ったりしながら、自分の五感を通して、台湾の魅力を感じ取っていった。活動を通して生徒は、日本で見出したグローバルなものも見方や考え方が、台湾でも必要とされていることを再確認することができ、今までの学びを価値付けることができた。しかしながら、「コミュニケーションが大切だ」と頭では分かっていた

でも、実際に台湾のガイドさんや

中学生にかかわろうとすると、なかなか言葉が出ず、尻込みしてしまう自分たちの至らなさにも気付いたようだった。

「台湾の旅」を通して生徒は、グローバルなものの見方や考え方で「相手をよりよく知ろうとすること」や「知るためにかかわろうとすること」が、国内外問わずに大切なことを実感した。また同時に、思うように相手とのかかわりができなかった自分たちの課題を切実に実感することとなった。同校では、3年次にはこれらの課題を解決できるよう、一歩前に踏み出していく力を、70周年の節目の年に合わせて育成していくこととしている。

※同校では、修学旅行を生徒が主体的・探究的に創り上げていくプロセスにこだわり、「旅」と名付けて実践を重ねてきた。

題意識に沿ったゲストティーチャーを招き、何度も意見交流を行うことを通して「グローバルなもの見方や考え方とは何か」を問い続けた。すると、生徒の内面には「自分たちが見出したグローバルな見方や考え方は、日本の側からとらえたものに過ぎないのではないか。海外でも通用するののか」という疑問と「台湾で大切にされている見方や考え方を学びたい」という目的意識が次第に生まれていった。



B&Sプログラム